

会 議 記 録 (I)

会議名称	北本市第三次障害者福祉計画策定委員会 第6回委員会
開会及び閉会日時	平成29年3月16日(木) 午後2時00分(開会)～午後3時30分(閉会)
開催場所	北本市役所3-F会議室
議長氏名	加藤潤一委員長
出席委員(者)氏名	加藤潤一委員長、木下大生副委員長、岡野貞子委員、岩崎雄一委員長、長島幸枝委員、関根秀行委員、甲斐田よし子委員、長岩透委員、平尾良雄委員、長谷川由美子委員、関根孝明委員
欠席委員(者)氏名	横田清委員
説明者の職氏名	福祉部障がい福祉課課長 平井 巖
事務局職員職氏名	福祉部障がい福祉課課長 平井 巖 福祉部障がい福祉課主任 中根 聡
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) パブリックコメントへの対応について (2) 第三次障害者福祉計画(案)について 4 その他 5 閉 会
配布資料	・ 委員会次第 ・ 策定委員会委員名簿 ・ 資料1 第三次北本市障害者福祉計画(案) ・ 資料2 第三次北本市障害者福祉計画(案)に対する意見一覧(パブリックコメント結果の公表) ・ 資料3 第三次北本市障害者福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会（一略） 配布資料について確認 2 あいさつ（委員長） （会議の公開について →異議なし） 傍聴者1名あり 3 議事
事務局 委員長 委員長 副委員長 事務局 副委員長 委員A 副委員長	（1）パブリックコメントへの対応について （資料2 説明） 1名と1団体から合計12件の意見が出されたが、まず1～7について いかがか。 （意見等無し、了承） 8～12についていかがか。 8について、事務局に確認したい。指摘を受けて議事録は公開した が、委員名簿は計画書で公開ということか。何か支障があったのか。 そういう訳ではない。会議資料も今後、ホームページに掲載する。 9について、近隣市の地域福祉計画の委員会でも同様の意見があっ た。各主体の役割は、役割がわかるから載せようとの意見で、結果とし て掲載することになった。上から目線というか、ご指摘もわからなくは ないが、載せるべきでないとは思わない。 以前の会議でも発言したように、懇談会等で市民の意見を踏まえて目 標を立てるなら賛成できるが、この1年の中ではそうした機会はなかつ た。ただし、以前の会議で委員長より市民参加の取り組み姿勢として説 明もあり、こうした表現を採用するのはやむを得ないと考える。 近隣市の例では、言葉尻をとらえて本質的な議論でない面もあるが、 行政以外の主体が「〇〇〇をつくります」と表記するのは言い過ぎとの 意見があったのは確かである。

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
委員長	こうした取り組みが次への一步につながる。「障がい者のために」と考えた時、市で不足していること、今後10年で目指すことを示すのが、今後の方向性だと考えている。
副委員長	10について、評価については、どこの自治体でも課題になっている。評価軸をすぐには出せないと思うが、今後の課題としてしっかりとらえておく必要がある。掛け声だけで終わるのは一般的にありがちなことなので、今後、評価についても北本モデルのようなものが示せばいいと思う。
委員長	率直な感想として、行政計画の捉え方は難しいと感じた。淡々と事務的に市が実施していくところ、感情的なものが入ってくるところ、寄せられた意見をみると両面あるように感じた。第二次計画のほうが意見に沿っていたのかも知れないが、今後は評価を意識しながら、行政のみでなく関係団体・事業者も含めてつなげていく仕組みが大切なのだろう。また、市が障がい者施策に思いを持っていることを、もう少し押し出しでもよかったかと思う。
事務局	評価の仕組みはしっかり考えていきたい。 8には名簿も公表する旨を追加し、7に脱字があるので修正する。
事務局	(2) 第三次障害者福祉計画(案)について (資料1 説明、印刷した計画書は関係機関等に配布するほか、ホームページにも載せることを説明))。
委員長	P70の委員名簿について。団体の役職名が変更になったはずなので、別途事務局に連絡する。 市長の巻頭言に、「障害福祉サービス事業所に関する請願」が市議会において全会一致で採択されとあるが、載せてかまわないか。
事務局	事実なので掲載してかまわないと思う。

会 議 記 録 (4)

発 言 者	発 言 内 容
委員B	グループホームのほか生活介護事業所が不足している。精神障がい者の地域生活支援事業では、鴻巣の「夢の実」を核に「かばざくら」が頑張っているなどの状況はあるものの、さまざまな供給体制の課題はあるのは確か。サービスの具体は第五期障害福祉計画にて検討したい。確かに、グループホームのみ強調するのではなく、文面については持ち帰り再検討する。議会では生活介護の供給量が足りなくなるのではとの意見あり、民間等含めた提供サイドの協議を進めたいと答弁している。課題はあるが進めていきたい。
委員長	承知した。市長の巻頭言が確定したら、委員に共有をお願いしたい。
委員A	P2の合理的配慮は雇用面だけでない。障害者差別解消法のところで、行政においても合理的配慮が必要であることなどをうたうべきである。
事務局	事務局で整理する。
委員長	市長の巻頭言は変更の可能性はあるが、計画はこれでよいか。 (了承)
委員長	計画はこれで決定ということで、これからの取り組みなどについて、ざっくばらんに意見をお願いしたい。
委員C	パブリックコメントの中に、「この計画はまちづくりをねらっているのではない」との意見があったが、今回の策定委員会では10年後の理想像を描こうとの委員長の思いがあり、当事者からの目線、一緒につくっていこうという思いが入っているので、実行についても一緒にやっていければと思う。当事者・家族・行政・事業者など、みんなで一緒にというイベント的なことでも実現できたらと思う。
委員D	市は、計画書やアンケート調査報告書の配布先として、どのような範囲を想定しているのか。アンケート協力者に配るなども考えているか。
事務局	アンケート協力者に配ることは想定していない。関係団体などに配布し、また広報、ホームページ等に掲載したい。

会 議 記 録 (5)

発 言 者	発 言 内 容
委員E	計画の簡易版的パンフレットをつくって市民に配ったり、駅前に理念を掲げたシンボリックな目に見えるものをつくったりなど、形で市民に見せることも重要ではないか。
事務局	今後、検討したい。
委員F	公募委員というより、スペシャルオリンピックスを手伝っている立場から発言すると、選手の表敬訪問を断ったのは県内で北本市だけである。北本市は遅れているというイメージで見られており、変えていきたいという思いから公募委員になった。今回、わかりやすい障害者福祉計画ができたわけで、市民にもわかりやすく施策を進めていってほしい。
委員G	自分の障がい以外ではわからない面もあったが、今回は勉強になった。これを契機にさらに取り組んでいきたい。
委員H	市長の巻頭言はこれまでの計画書にはなく、初めて見たように思う。これまで、請願や要望書がその後どうなったかいつも気になっていたが、文面に出ておりうれしいことだ。
委員I	いつ自分も障がい者になるかわからない。障がいや障がい者への市民の理解が大切。グループホームの整備をはじめ、徐々に実現していければと思う。
委員A	もっと時間があれば、市民を巻き込んで議論出来たろうが、委員長の熱意で計画には市民の役割も入れ、私も賛同した。厚労省もそうした方向性になってきている。
委員B	まず、これまでの熱心な議論についてお礼申し上げる。課題もあるがそれを明確にして行政として進めていくつもりである。もう一点は、議会でも障がい福祉関連の質問が増えている。議員の関心も高まっているということだろう。財政的な制約もあるが、みなさんの率直な意見をふまえ進んでいきたい
副委員長	委員Eの発言のように、計画の内容をいかに広めていくかが重要。市民の理解・参画をどう進めるか。率直にいうと、計画書配布先が限定されているようなので何か工夫があるといい。

会 議 記 録 (6)

発 言 者	発 言 内 容
委員長	1 年近くにわたる議論について、みなさんにお礼申し上げたい。また、自分にとっても勉強になった。大切なのは熱意だ。それがこれからの北本を変えていく。得する人、逆の人もいるかもしれないが、困っている人に何ができるか、みんなで知恵を絞るしかない。みんなで取り組み、形にしていくことが大切だと思う。 4 その他 (特になし) 5 閉会
議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。 平成27年 3月20日 委員長 加藤 潤一	